

余暇のひととき

文化協会より

短歌

△二名短歌会▽

つらなめて山々か黒くひとときわに篠山ま白靈山と思う

吉田 信保

春の陽の暖かくしてそこかしこ畑仕事する人多く見かける

善家 キクエ

逃ぐるごとときさらぎ逝きてやよひとふやさしき風に菜の花揺るる

善家 聖子

焼かれたる土手に生えこし土筆つむ親子に逢いてひととき楽し

善家 博子

亡き祖父がつぎ木をしたる紅白の梅の香りの窓より入り来

武田 あきの

床に臥す吾が痴呆にならぬ様「童謡カセット」かけて聞かせる

武田 キミ子

燈台への椿のトンネル潜り抜け見渡す海は光あふれる

安波 五月

沢庵のほどよく漬かりまた思ふ漬け物好きの夫在りし日を

高山 幸子

俳句

△草の実▽

青葉光草鞋履なる御本尊

帆柱に帆綱百条風薫る

水満々薫風の押す屋形船

白桃やまがふことなく嬰の尻

牡丹と古鏡のごとく向かひあひ

牧住まひ白妙干して夏来る

風戸 晴美

島瀬 吉良

細川 英子

宮崎 さくを

森田 たみ

薬師寺 彦介

川柳

△吉田川柳会▽

あどけない笑顔残して孫門出

林上がり懲りてた欲が目を覚ます

ユニークなご意見ですと流される

孫が出て声が大きくなる電話

魅せられて買ったバラにも痛い刺

晩学の意欲励ます広辞苑

赤松 委沙子

加賀山 一興

金子 すすむ

日野 厚生

薬師寺 絹子

米子 達雄

△いそしぎ句会▽

菜の花の川辺に山羊の放牧場

野茨の散る寄宿舎の裏通り

釜揚うどん麦秋の讃岐富士

新茶の香一病忘れ樂しめり

ツーリングバイクの轟音五月晴

遅速なく色を揃へしチューリップ

帆船の甲板磨く跳足かな

夏うぐいす棚田に水のゆきわたり

かきつばたは比の紬に袖通す

片山 智恵子

佐々木 咲子

佐々木 毅

二宮 晴美

古谷 八重

村尾 昭子

毛利 節子

渡辺 正子

平岡 千代子

△牛鬼句会▽

島風に泳ぎ通しの鯉幟

ペンギンの背筋が伸びる薄暑かな

縦横の畝に散らばる茶摘かな

オリーブ咲き一年生は二人だけ

茶摘み歌声を出さずに歌ひけり

風薫る島に架橋の測量士

玄関のポストに挿さる鯉のぼり

ポピーの名ピエロと聞いてうなづける

有る無しの風に応ふる早苗かな

栗の木と教へられたる若葉なり

池田 香代子

大村 孝

坂本 扶美子

高島 光子

高山 和美

中浦 ミエ子

水野 幸子

宮下 京子

山能 秀子

平岡 千代子